



図 3-6 深川南部地区の 2050 年将来像：みどりの将来構造と今いる生きもの

3)城東北部地区

2050 年将来像

水と緑のネットワークを生かし、水辺の拠点を中心に生物多様性を保全するとともに、受け継がれてきた歴史と文化を後世に伝えるまち

表 3-4 城東北部地区における 2050 年将来像

将来構造	場所・施設	将来像	目標※
みどり・生きものの動脈	小名木川	・荒川と隅田川等をつなぐ水生生物や水鳥の重要なネットワークとして機能し良好な水辺環境が形成されています。	I
		・豊かな水辺で釣りや観察など体験の場となっています。	II
みどり・生きものの拠点	都立亀戸中央公園・旧中川水辺公園	・良好な緑地・水辺が保たれエコトーンを形成しています。	I
		・花・紅葉の名所や水辺の釣り場など、多種多様な主体の自然観察や体験の場となっています。	II
		・まとまった自然を生かした環境教育が行われています。	III
	都立大島小松川公園	・良好な緑地・水辺が保たれエコトーンを形成しています。	I
		・避難場所や雨庭など防災拠点として機能しています。	II
		・まとまった自然を生かした環境教育が行われています。	III
みどり・生きもののみち	旧中川・北十間川・竪川・横十間川	・荒川と隅田川等をつなぐ水生生物や水鳥のネットワークとして機能し、良好な水辺環境が形成されています。	I
		・豊かな水辺で釣りや観察など体験の場となっています。	II
	大島緑道公園・亀戸緑道公園	・街中を通る身近な自然が保たれ、みどりの拠点や点在する緑地をつなぐネットワークとして機能しています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
新たに評価			
みどり・生きものの拠点	亀戸エリア(亀戸天神社等)	・昔から受け継がれてきた土壌や緑地が保たれています。	I
		・花の名所として歴史・文化体験の場となっています。	II
	大島・北砂エリア(大島四丁目団地等)	・多様な主体が連携・協働し、住宅団地や高層マンション等のまとまった緑地が保たれ、新たな拠点となっています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
みどり・生きもののみち	都立猿江恩賜公園～荒川	・多様な主体が連携・協働し、ポケットエコスペースや公園といった緑地がネットワークとして機能しています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
みどり・生きものスポット	ポケットエコスペース(釜屋堀公園、竪川第一公園、亀戸九丁目緑道公園、小学校)	・区と市民団体や学校が連携・協働し、貴重な湿地環境が保たれ多種多様な生きものが息づいています。	I
		・身近な自然を生かした環境教育が行われています。	III
	コミュニティガーデン	・生物多様性に配慮したガーデン活動が広がっています。	II
		・ガーデンを生かした環境教育が行われています。	III
	江戸東京野菜の栽培地(香取小学校等)	・江戸東京野菜の歴史と文化が受け継がれています。	II
		・江戸東京野菜を生かした環境教育が行われています。	III

※各場所・施設の将来像につながる 3 つの 2030 年目標を示します。

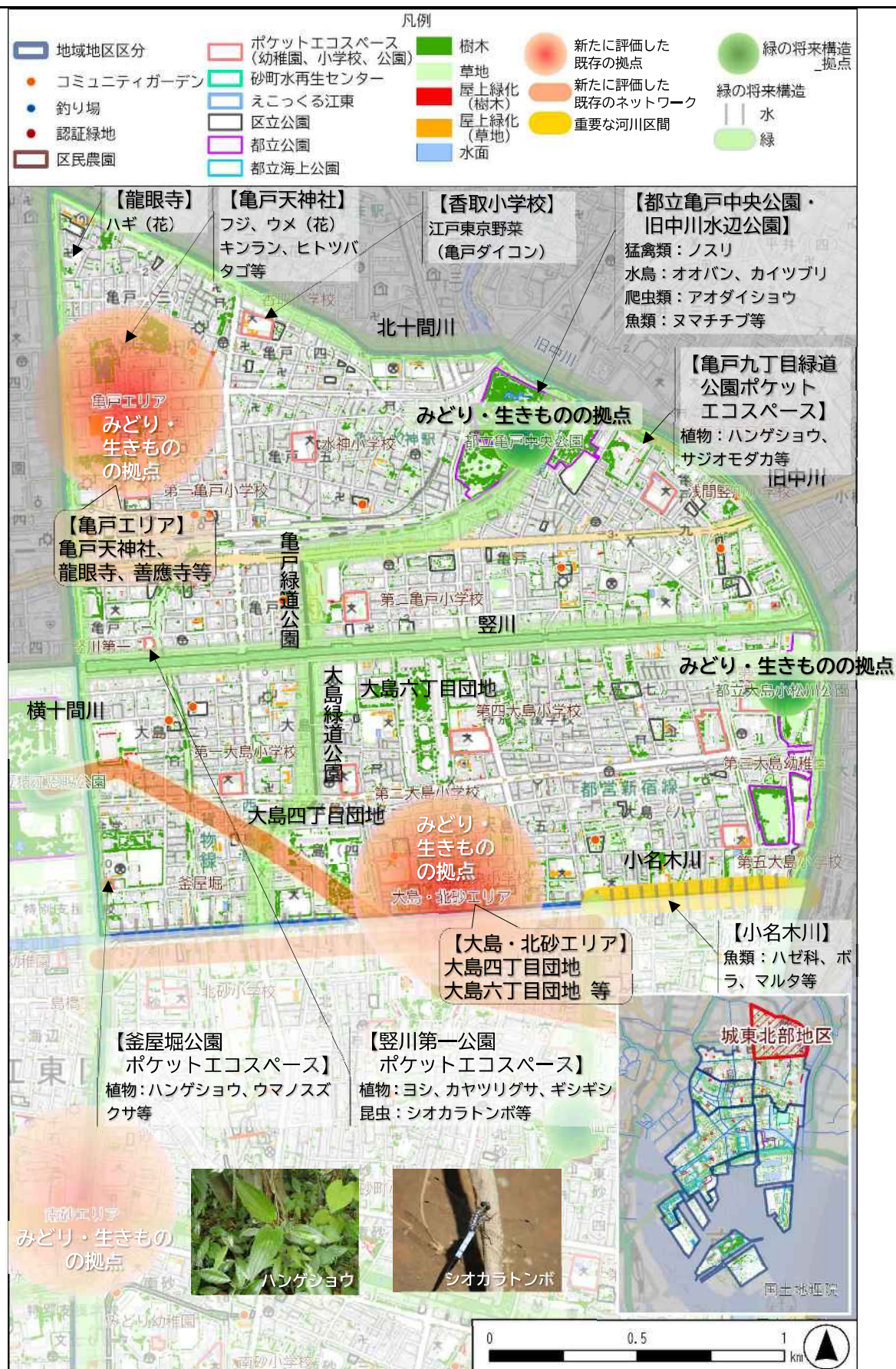


図 3-7 城東北部地区の 2050 年将来像：みどりの将来構造と今いる生きもの

4)城東南部地区

2050 年将来像

荒川の雄大な恵みを感じながら、日常に自然との触れ合いが溶け込み、人の暮らしと生きものの生息・生育地が共存するまち

表 3-5 城東南部地区における 2050 年将来像

将来構造	場所・施設	将来像	目標※
みどり・生きものの動脈	荒川・河川敷(小名木川は城東北部地区に詳述)	・上流域と東京湾をつなぐ水生生物や水鳥の重要なネットワークとして機能し良好な水辺草地在形成されています。	I
		・多様な主体が連携・協働し外来種対策を進めています。	
		・豊かな水辺で釣りや観察など体験の場となっています。	II
みどり・生きものの拠点	仙台堀川公園	・連続する緑地・水辺が保たれエコトーンを形成しています。	I
		・花・紅葉の名所や水辺の釣り場、区民農園など、多種多様な主体の自然観察や体験の場となっています。	II
		・まとまった自然を生かした環境教育が行われています。	III
	荒川砂町水辺公園	・良好な草地・水辺が保たれエコトーンを形成しています。	I
		・ポケットエコスペースや荒川河川敷を生かした自然観察や環境教育が行われています。	II
			III
みどり・生きもののみち	横十間川	・小名木川等とつながる水生生物や水鳥の重要なネットワークとして機能し、良好な水辺環境が形成されています。	I
		・豊かな水辺で釣りや観察など体験の場となっています。	II
	仙台堀川公園・永代通り	・街中を通る身近な自然が保たれ、みどりの拠点や点在する緑地をつなぐネットワークとして機能しています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
新たに評価			
みどり・生きものの拠点	南砂エリア(横十間川親水公園等)	・連続する緑地・水辺が保たれエコトーンを形成し、住環境の中に人と生きものが適切に共存しています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
	大島・北砂エリア(北砂五丁目団地広場等)	・多様な主体が連携・協働し、住宅団地や小学校等のまとまった緑地が保たれ、新たな拠点となっています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
みどり・生きもののみち	都立猿江恩賜公園～荒川、小名木川沿い	・多様な主体が連携・協働し、ポケットエコスペースや公園といった緑地がネットワークとして機能しています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
みどり・生きものスポット	ポケットエコスペース(亀高小学校等、各小学校)	・区と市民団体や学校が連携・協働し、貴重な湿地環境が保たれ多種多様な生きものが息づいています。	I
		・身近な自然を生かした環境教育が行われています。	III
	区民農園(城東区民農園、砂町区民農園)	・生物多様性に配慮した農業体験が浸透しています。	II
		・農園を生かした環境教育や食育が行われています。	III
	コミュニティガーデン	・生物多様性に配慮したガーデン活動が広がっています。	II
		・ガーデンを生かした環境教育が行われています。	III
	江戸東京野菜栽培地(砂町小学校、第五砂町小学校等)	・江戸東京野菜の歴史と文化が受け継がれています。	II
		・江戸東京野菜を生かした環境教育が行われています。	III

※各場所・施設の将来像につながる 3 つの 2030 年目標を示します。

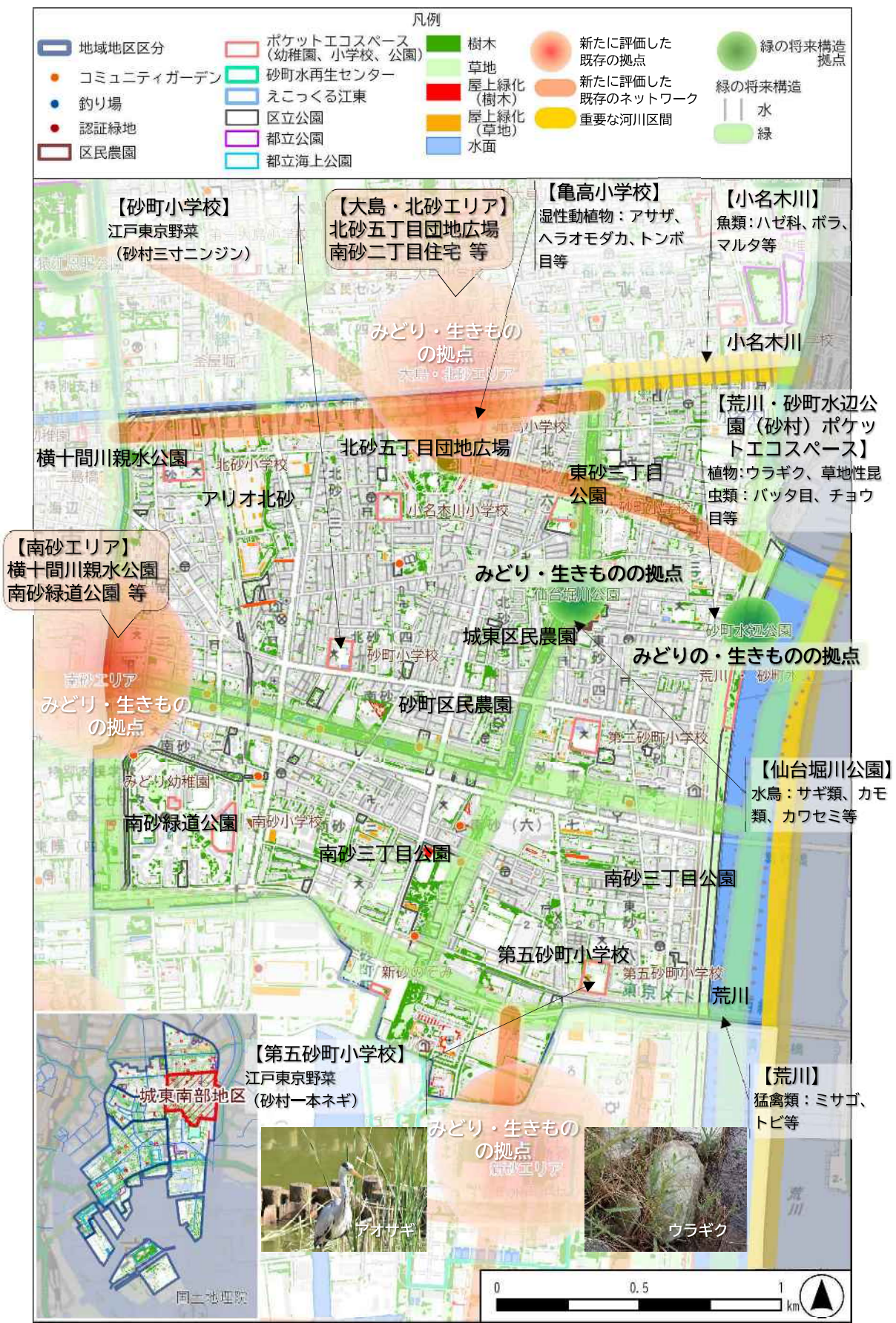


図 3-8 城東南部地区の 2050 年将来像：みどりの将来構造と今いる生きもの

5)南部地区(南部地区西・南部地区東)

2050 年将来像

経済・文化・科学が融合する臨海副都心に創られた多種多様な水と緑、人と生きものがつながり先進的な体験と教育が受けられるまち

表 3-6 南部地区における 2050 年将来像

将来構造	場所・施設	将来像	目標※
みどり・生きものの拠点	豊洲エリア (豊洲公園、都立春海橋公園等)	・まとまった良好な緑地・海辺が保たれています。	I
		・コミュニティガーデン活動との連携やイベント開催など、多種多様な主体の体験の場となっています。	II
	辰巳エリア (都立辰巳の森緑道公園、都立辰巳の森海浜公園)	・まとまった良好な緑地・海辺が保たれています。	I
		・桜並木や水辺の釣り場、バーベキューなど、多種多様な主体の自然観察や体験の場となっています。	II
	有明～青海北エリア (都立シンボルプロムナード公園、有明テニスの森公園等)	・まとまった自然を生かした環境教育が行われています。	III
		・まとまった良好な緑地・海辺が保たれています。	I
みどり・生きもののみち	運河沿い(汐浜運河、汐見運河等)〈新規〉砂町運河沿い	・花の広場のナチュラルスティックガーデンなど、多種多様な主体の自然観察や体験の場となっています。	II
		・避難場所や雨庭など防災拠点として機能しています。	
		・臨海副都心周辺を縦横につなぐ水生生物や水鳥のネットワークとして機能し、潮見さざなみ公園ポケットエコスペースなど海辺の緑を保全しながら、良好な水辺環境が形成されています。	I
		・潮風の散歩道など日常の憩いの場や東陽・新砂地区ルネサンス協議会などのイベントの場となっています。	II
新たに評価			
みどり・生きものの拠点	東陽・潮見エリア (NOVARE、東陽ぐりんたす等)	・NOVARE や東陽ぐりんたすなど、東陽町駅から汐浜・汐見運河につながる良好な緑地や水辺が保たれています。	I
		・多様な主体と連携し企業緑地を活用した多面的かつ先進的な環境教育が区内外に広く行われています。	III
	青海南エリア (青海南ふ頭公園等)	・都立海の森公園へとネットワークがつながる良好な緑地・池、海辺が保たれています。	I
みどり・生きものスポット	ポケットエコスペース(潮見さざなみ公園、えこっくる江東、小学校)	・港湾から侵入する特定外来生物の防除が進んでいます。	
		・区と市民団体や学校が連携・協働し、海沿いの貴重な湿地環境が保たれ多種多様な生きものが息づいています。	I
	区民農園(辰巳区民農園)	・身近な自然を生かした環境教育が行われています。	III
		・生物多様性に配慮した農業体験が浸透しています。	II
	コミュニティガーデン	・農園を生かした環境教育や食育が行われています。	III
		・生物多様性に配慮したガーデン活動が広がっています。	II
	人工磯(都立水の広場公園等)	・ガーデンを生かした環境教育が行われています。	III
		・都立水の広場公園など、魚類や底生生物にとって重要なエコトーンの人工磯が保全されています。	I
	大学や事業者の緑地(武蔵野大学、マンション緑地等)	・人工磯を活用した釣りや自然観察の場となっています。	II
・武蔵野大学や緑地認証を受けたマンションなどでまとまった緑や池が保たれています。		I	
	・大学緑地では学生の環境教育や研究が行われています。	III	

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



6)湾岸地区

2050 年将来像

貴重な干潟や東京湾に面した生物多様性を保全するとともに、
広大な自然を生かしたレクリエーションによるにぎわいのあるまち

表 3-7 湾岸地区における 2050 年将来像

将来構造	場所・施設	将来像	目標※
みどり・生きものの拠点	都立夢の島公園、都立夢の島緑道公園	・まとまった良好な緑地が保たれています。	I
		・スポーツ場やバーベキューなど、多種多様な主体の自然観察や体験の場となっています。	II
		・まとまった自然を生かした環境教育が行われています。	III
	都立若洲海浜公園、若洲公園	・まとまった良好な緑地や人工磯を生かした海辺が保たれエコトーンを形成しています。	I
		・多種多様な主体の自然観察や釣りなどの体験の場となっています。	II
		・海辺と緑地を生かした環境教育が行われています。	III
	都立海の森公園	・広大な緑地が東京湾の広域的な拠点となっています。	I
		・様々な主体の自然観察などの体験の場となっています。	II
		・都と多様な主体が連携して様々な環境教育があります。	III
みどり・生きもののみち	辰巳の森緑道公園～夢の島緑道公園	・京葉線沿線の区南部を東西につなぐ緑地の生きものネットワークとして機能し、連続する緑地が形成されています。	I
		・自然観察や散策など体験・憩いの場となっています。	II
		新たに評価	
みどり・生きものの拠点	新砂エリア(砂町水再生センター、新砂干潟、新砂のぞみ公園等)	・都や国、市民団体と連携し、砂町水再生センターを中心としたまとまった緑地や湿地環境、新砂干潟の良好な干潟環境が保たれています。	I
		・昔には当たり前にあった干潟環境や荒川を通じて流れる河川ゴミなどを題材とした環境教育が行われています。	III
	新木場エリア(新木場緑道公園等)	・南北に連続する良好な緑地や浅場を生かした海辺が保たれエコトーンを形成しています。	I
		・日常的な自然観察や散策の場となっています。	II
	青海南エリア(曙ふ頭公園等)	・海の森公園へとつながる良好な自然が保たれています。 ・港湾から侵入する特定外来生物の防除が進んでいます。	I
みどり・生きもののみち	砂町水再生センター～荒川	・砂町水再生センターを中心に、ポケットエコスペースや公園といった緑地がネットワークとして機能しています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
	荒川河口～若洲エリア	・荒川河口から新木場緑道公園、ゴルフ場といった緑地がネットワークとして機能しています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場、体験の場となっています。	II
みどり・生きものスポット	ポケットエコスペース(荒川・砂町水辺公園、新砂のぞみ公園)	・区と市民団体が連携・協働し、河川沿いの貴重な湿地環境が保たれ多種多様な生きものが息づいています。	I
		・身近な自然を生かした環境教育が行われています。	III
	区民農園(夢の島区民農園)	・生物多様性に配慮した農業体験が浸透しています。	II
		・農園を生かした環境教育や食育が行われています。	III

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。

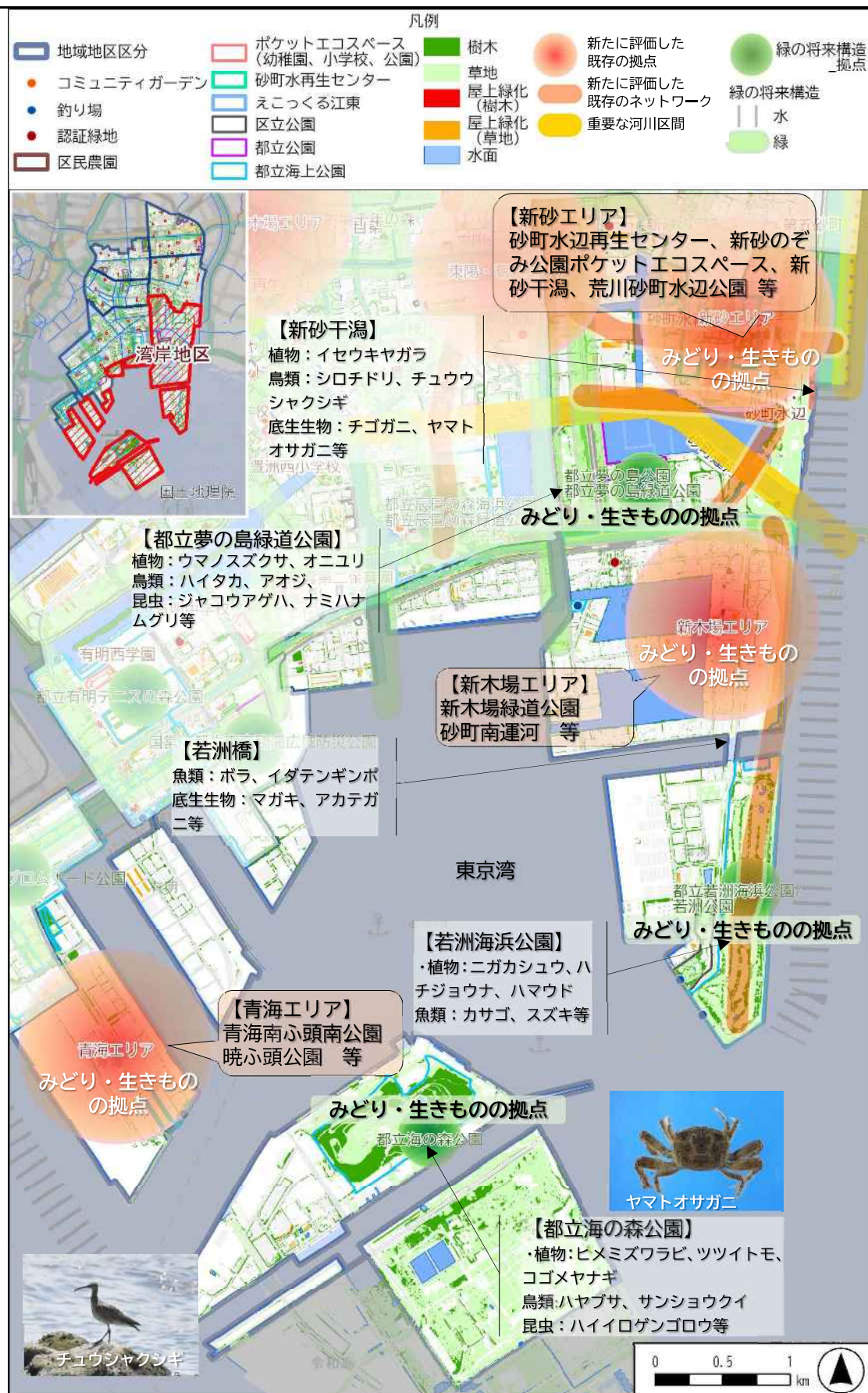


図 3-10 湾岸地区の 2050 年将来像：みどりの将来構造と今いる生きもの

第4章

具体的な施策の内容

- 1 評価指標
- 2 施策の方向性
- 3 行動計画

第4章の概要

本章では、第3章までで整理された現状や課題、将来像を踏まえ、江東区の生物多様性地域戦略を実現するための具体的な施策や行動計画をまとめています。例えば、生息地の保全やエコロジカルネットワークの強化、外来種対策、環境教育やボランティア育成、グリーンインフラの推進、地域資源を活かした体験活動の充実など、主要な取組を示しています。

これらの取組は評価指標とともに進捗を管理し、区民・事業者・行政など多様な主体が連携して推進していくことが求められます。

基本目標	施策の方向性	
基本目標Ⅰ 守り、育てる	I-1	江東区における生物多様性の保全及び拡大
	I-2	江東区とその周辺におけるエコロジカルネットワークの維持・強化
	I-3	生態系や人の生活を脅かす外来種対策の推進
	I-4	生きものとの共生社会の実現
	I-5	多様な主体と連携した自然環境等に関する情報の集積と発信
基本目標Ⅱ 生かし、つなぐ	II-1	生物多様性に配慮した自然の恵みの持続的利用の推進（供給サービス）
	II-2	防災・減災や景観形成等に寄与するNbSの推進（調整サービス）
	II-3	地域の自然資源を生かした体験活動への参画推進と歴史・文化の保全・継承（文化的サービス）
基本目標Ⅲ 知って、変わる	III-1	生物多様性の理解促進
	III-2	あらゆる主体の連携・協働による取組の推進
	III-3	生物多様性の保全に貢献する環境教育・人材育成の促進
	III-4	日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進

3. 行動計画

2025年までの実施に向けた取組の方向性を示す。具体的な行動計画は各主体の役割は以下のとおりです。
江東区が主導を担うにあたっては、事業者の協力を多くとるとともに、国や東京都、区内の関連部署だけでなく、周辺の各主体（区民等、事業者、民間団体、府庁・市役所等）と十分な連携・協働・情報共有を図りながら、施策を進めていきます。

基本目標Ⅰ 守り、育てる



【I-1】江東区における生物多様性の保全及び拡大

江東区では、定住化に伴う農地や工場などにより、生きものや生態系・自然環境が減少しています。また、緑地公園や河川公園、学校や市民団体のポケットエコスペースなど、守り続けられてきたエリアでは、長い年月による劣化により維持管理が難しくなっています。

今後、ポケットエコスペースのような江東区を代表する特徴的な生態系を守るには、異なる生物多様性に関する取組を統合して進めていくとともに、生態・生物多様性を適切に維持管理し、保全していくことが必要です。



① 各主体の役割

- 公園、緑地の整備・保全を進めています。
- 自然環境の保全等により地域の生物多様性の保全・創出に努めます。
- 緑地公園や河川公園の新規創設など、生物多様性を創出するエリア拡大を図ります。
- 様々な自然体との親のつながりを大切にして、生物多様性の回復に取り組んでいます。

区民等

- 緑地や水辺、ポケットエコスペースなど地域の魅力を保全するボランティア活動に積極的に参加し、多様な生きものや生態系・生物・景観できるあじりの再生・創出に貢献します。
- 地域の公園等の維持管理活動に積極的に参加し、気持ちよく利用できるようにします。
- 公園・緑地をばりやみに確保してより活用しやすきようにします。

事業者

- 緑地や水辺、ポケットエコスペースなど地域の魅力を保全するボランティア活動に積極的に参加し、多様な生きものや生態系・生物・景観できるあじりの再生・創出に貢献します。
- 地域の公園等の維持管理活動に積極的に参加し、気持ちよく利用できるようにします。
- 行政やNPO等と連携し、社会参加による地域の魅力を保全する活動を実施します。
- 事業所の敷地における緑地や水辺などを各種認定制度に登録し、将来にわたって保全していきます。

民間団体

- 公園・緑地、水辺の保全を保全するボランティア活動を企画・実施します。
- 緑地や水辺、ポケットエコスペースなど地域の魅力を維持管理に貢献します。

教育・研究機関

- 学校や大学における緑地や水辺の保全・創出を行い、エコロジカルネットワークの形成に貢献します。
- どのような地域にエコロジカルネットワークの創出・保全が必要か、専門的な立場から調査・研究し土壌管理等に提供します。

国・都

- 東京都の都立公園の指定管理が法人を定めるとともに、整備地域における生物多様性保全の拠点として、国に求めた資金を生かし、市立公園が持つ環境保全機能を高めます。
- 東京都において、ブルーカーボン生態系創出推進計画等の策定・保全を行います。
- 生物多様性の観点として位置づけられる都立公園で重点的に環境整備を行い、整備後も生物多様性のモニタリング等を実施しながら継続的な管理を実施し、多様な生きものが安心して生活・子育てできる環境を創出します。

第4章 具体的な施策の内容

1 評価指標

3つの2030年目標の達成に向けて、表4-1 評価指標に示すとおりの評価指標を設定し、モニタリングを行うことで達成状況进行评估します。

表 4-1 評価指標

基本目標	評価指標	現状値 (各年度)	目標値 (R12)	備考
基本目標Ⅰ 守り、育てる	現地調査にて確認した重要種・在来種・特定外来種の確認種数及び地点数	精査中	備考欄参照	現地調査の結果より評価 ・在来種：基準年より増加 ・重要種：基準年の現状維持 ・外来種：基準年より減少
	自然共生サイト認定数(件)	2件 (R7)	4件	民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域
	みどり率(%)	37.54% (R4)	37.54% (現状維持)	樹木、草地等の緑で覆われた土地と河川等の水面の面積
	区民・事業者による新たな緑化面積(m ²)	91,048m ² (R5)	—※1	敷地面積250m ² 以上の施設(区立施設を除く)で、緑化計画書に記載された新規の緑化面積
基本目標Ⅱ 生かし、つなぐ	公共建築物等における木材利用推進の運用(累計)	26施設 (R5)	29施設 (R11)※2	
	食育に関心がある人の割合(%)	67.8 (R5)	90%	区民健康意識調査結果による
	みどり率(%)〈再掲〉	37.54% (R4)	37.54% (現状維持)	樹木、草地等の緑で覆われた土地と河川等の水面の面積
	雨水流出抑制対策量(m ³)	13,944m ³ (R5)	—※1	
	江東区みどり百景選定数	募集中 (R7)	100	フォトコンテスト受賞作品
基本目標Ⅲ 知って、変わる	生物多様性の内容を知っている区民の割合(%)	39.8% (R6)	70% (R11)※3	区民アンケートで、「生物多様性の言葉の意味を知っていた」と回答した区民の割合
	エコリーダー養成講座修了者数	448人 (R5)	610人	
	環境に配慮した行動に取り組む区民の割合(%)	66.8% (R6)	77%	区民アンケートで、環境に配慮した行動を5項目以上選択した区民の割合
	事業系廃棄物の再利用率(%)	72.4% (R4)	74.5%	大規模建築事業者(3,000m ² 以上の延べ床面積を持つ事業所)が、排出する事業系廃棄物を再利用する割合

※1) 毎年度の実績管理項目とします。

※2) 「江東区環境基本計画(令和7年度から令和12年度)」に基づき、令和11(2029)年度を目標としています。令和12(2030)年度以降は、新しい計画に基づき取り組みます。

※3) 「江東区長期計画(後期)(令和7年度から令和11年度)」に基づき、令和11(2029)年度を目標としています。令和12(2030)年度以降は、新しい計画に基づき取り組みます。

2 施策の方向性

3つの2030年目標の達成に向けて、表4-2に示すとおりの方角性をもった施策を推進します。

表 4-2 施策の方角性

基本目標	施策の方角性	
基本目標Ⅰ 守り、育てる	I-1	江東区における生物多様性の保全及び拡大
	I-2	江東区とその周辺におけるエコロジカルネットワークの維持・強化
	I-3	生態系や人の生活を脅かす外来種対策の推進
	I-4	生きものとの共生社会の実現
	I-5	多様な主体と連携した自然環境等に関する情報の集積と発信
基本目標Ⅱ 生かし、つなぐ	Ⅱ-1	生物多様性に配慮した自然の恵みの持続的利用の推進（供給サービス）
	Ⅱ-2	防災・減災や景観形成等に寄与するNbSの推進（調整サービス）
	Ⅱ-3	地域の自然資源を生かした体験活動への参画推進と歴史・文化の保全・継承（文化的サービス）
基本目標Ⅲ 知って、変わる	Ⅲ-1	生物多様性の理解促進
	Ⅲ-2	あらゆる主体の連携・協働による取組の推進
	Ⅲ-3	生物多様性の保全に貢献する環境教育・人材育成の促進
	Ⅲ-4	日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進

3 行動計画

2030年目標の達成に向けた施策の方向性に基づき、具体的な行動計画及び各主体の役割は以下のとおりです。

江東区が事業を実施するにあたっては、専門家の意見を聞くとともに、国や東京都、区内の関連部署だけでなく、地域の各主体（区民等、事業者、民間団体、教育・研究機関）と十分な連携・協働・情報共有を図りながら、効果的かつ持続的に進めていきます。

基本目標Ⅰ 守り、育てる



【Ⅰ-1】江東区における生物多様性の保全及び拡大

江東区では、宅地化に伴う埋立てや工業化により、生きものの生育・生息環境が減ってきました。また、都立公園や区立公園、学校や公園内のポケットエコスペースなど、守られ維持されてきたエリアでは、担い手不足や高齢化により維持管理が難しくなっています。

今後、ポケットエコスペースのような江東区を代表する特徴的な生態系を守るには、更なる生物多様性に配慮した緑地等を創っていくとともに、生息・生育環境を適切に維持管理し、保全していくことが必要です。



写真 4.1 ポケットエコスペース



写真 4.2 維持管理の状況

① 各主体の役割

区

- 公園・緑地の整備・保全を進めていきます。
- 自然地の保全等により地域の生物多様性の保全・創出に努めます。
- 区立公園や海上公園の新規開園など、生物多様性を担保するエリア拡大を図ります。
- 隣接する自治体との緑のつながりを大切にして、生物多様性の連続性を担保していきます。

区民等

- 緑地や水辺、ポケットエコスペースなど地域の緑を保全するボランティア活動に積極的に参加し、多様な生きものが生息・生育・繁殖できるみどりの再生・創出に貢献します。
- 地域の公園等の維持管理活動に積極的に参加し、気持ちよく利用できるようにします。
- 公園・緑地ではむやみに採取したり踏みつけたりしないように留意します。

事業者

- 緑地や水辺、ポケットエコスペースなど地域の緑を保全するボランティア活動に積極的に参加し、多様な生きものが生息・生育・繁殖できるみどりの再生・創出に貢献します。
- 地域の公園等の維持管理活動に積極的に参加し、気持ちよく利用できるようにします。
- 行政や NPO 等と連携し、社員参加による地域の緑を保全する活動を実施します。
- 事業所の敷地における緑地や水辺などを各種認定制度に登録し、将来にわたって保全していきます。

民間団体

- 公園・緑地、河川の緑などを保全するボランティア活動を企画・実施します。
- 緑地や水辺、ポケットエコスペースなど地域の緑の維持管理に貢献します。

教育・研究機関

- 学校等の敷地における緑地や水辺の保全・創出を行い、エコロジカルネットワークの形成に貢献します。
- どのような地域にエコロジカルネットワークの創出・保全が必要か、専門的な立場から調査・研究し土地管理者に提言します。

国・都

- 東京湾岸部の海上公園の新規開園及び拡大を進めるとともに、臨海地域における生物多様性保全の拠点として、海に囲まれた特性を生かし、海上公園が持つ環境保全機能を高めます。
- 東京港において、ブルーカーボン生態系を構成する藻場等の造成・保全を行います。
- 生物多様性の拠点として位置付ける都立公園で重点的に環境整備を行い、整備後も生物種のモニタリング等を実施しながら順応的管理を実現し、多様な生きものが安定して生息・生育できる環境を確保します。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
1	生きものの生息・生育空間の適正管理の手法をまとめ、適正管理を広めていきます。	江東区生物多様性推進マニュアルの策定[検]	土木部管理課
2	生きものの生息・生育空間の創出に向け、既存のポケットエコスペースや田んぼの学校の持続的な管理、公共・民間施設の緑化認証制度の利用推進などを行っています。	ポケットエコスペースの維持管理	土木部施設保全課 教育委員会学校施設課 教育委員会指導室
		田んぼの学校	土木部施設保全課
		公園緑地の管理(潮風の散歩道等)	土木部施設保全課
		緑化指導	土木部管理課
		保護樹木・樹林助成制度	土木部河川公園課
3	生きものの生息・生育空間の確保に向け、区民・事業者等に緑化指導や生物多様性に配慮した緑化の情報発信などを行っています。	公共施設の自然共生サイト登録[検]	土木部管理課
		緑化指導〈再掲〉	土木部管理課
		ビオトープガーデン講座	土木部管理課
4	江東区のシンボル種を選定し、シンボル種の生育・生息空間の保全を図っていきます。	事業者のビオトープや生物多様性に配慮した緑化の情報発信[検]	土木部管理課
		江東区のシンボル種の保全[検]	土木部管理課
5	東京都や国の管理区域(都立公園や都管理地、荒川河川敷等)における生物多様性の保全・創出の働きかけを行います。	東京都、国への働きかけ[検]	土木部管理課

[検]: 検討中の事業

【I-2】江東区とその周辺におけるエコロジカルネットワークの維持・強化

江東区は、南側が東京湾に面しており、東西を埼玉県から流れる荒川や隅田川に挟まれています。また、区内を縦横に流れる内部河川や区全域に点在する池やビオトープ、海沿いには人工干潟や人工磯など様々な水辺環境があります。その水辺の周辺には、大規模な都立公園や自然豊かなポケットエコスペース、企業緑地や社寺林、個人の庭、街路樹、屋上緑地などの様々な緑地があり、これらが繋がっていることで、生きものが移動できる江東区独自のエコロジカルネットワークが形成されています。

生物多様性の保全には、様々な人たちが協力しながら、このネットワークを守り強くすることが必要です。都立公園やポケットエコスペースなど重要な場所（コアエリア）や、街路樹や河川敷などの水辺・緑地の道（コリドー）を引き続き維持していくだけでなく、水辺と緑地の移行帯（エコトーン）の形成や、水辺で繋がる周辺区や区内に管理地を持つ東京都、国との連携も重要です。



写真 4.3 荒川



写真 4.4 都立公園(都立猿江恩賜公園)

① 各主体の役割

区

- 公園・緑地の整備を進めていきます。
- 水辺と一体となった緑化空間の形成を図ります。
- ポケットエコスペースの改修時には水辺と一体となった緑化空間やエコトーンの検討を行います。
- 開発時にはエコロジカルネットワークの分断が起こらないように、分断回避の指導を行います。
- 隣接する自治体との緑のつながりを大切にして、生物多様性の連続性を担保していきます。

区民等

- ポケットエコスペースなど地域の緑を保全するボランティア活動に積極的に参加します。
- 自宅の庭やベランダなどでビオトープガーデンの積極的な造成を行い、鳥や昆虫などの生息場所を創出していきます。

事業者

- 行政や NPO 等と連携し、社員参加による地域の緑を保全する活動を実施します。
- 事業所の敷地では、地域に応じた在来種を植栽するなど生態系に配慮した緑化を進めます。
- 事業所の敷地において生態系に配慮した緑の創出を図り各種認定制度に登録することで、将来にわたって保全していきます。
- 開発に際しては緑地や水路の分断を極力避けるとともに、分断のおそれがある場合は生きものの移動経路を確保します。

民間団体

- 行政や事業者と連携し、保全地域や公園・緑地、企業緑地などにおいて、市民ボランティアによる保全活動を企画・実施します。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、身近なみどりが生物多様性にとって重要であることを伝えます。
- 身近なみどりの保全に関して、専門的な立場から助言します。
- 身近なみどりにおける環境面、健康面、防災面などの人への効用について、調査・研究を行います。

国・都

- 河川、運河等において、堆積した汚泥のしゅんせつ等の対策を実施することで東京湾や河川における水質改善を図り、水生生物の生息空間としての水辺環境を保全・改善します。
- 堤防法面や護岸、管理用水路等の緑化を推進することにより、生物多様性の向上や防災等に資する水と緑のネットワークを充実させるとともに、身近に水に親しむことができる水辺の景観を形成し人々のにぎわいを創出します。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
6	水辺と一体となった緑化空間やエコトーン（移行帯）の検討・整備を進め、生きものが移動しやすい環境をつくりだすことで、エコロジカルネットワークの維持・強化を図っていきます。	ポケットエコスペースの改修等	土木部管理課
7	公共施設・区有施設における生きものの生息・生育拠点（コアエリア）をつなぐ街路樹や河川敷などの回廊（コリドー）の保全・創出により、エコロジカルネットワークの維持・強化を図っていきます。	ポケットエコスペースの維持管理〈再掲〉	土木部施設保全課 教育委員会学校施設課 教育委員会指導室
		田んぼの学校〈再掲〉	土木部施設保全課
		公園緑地の管理（潮風の散歩道等）	土木部施設保全課
		緑化指導〈再掲〉	土木部管理課
		保護樹木・樹林助成制度〈再掲〉	土木部河川公園課
		コミュニティガーデン	土木部管理課
		ナチュラリスティックガーデン	土木部管理課
8	生きものの生息・生育拠点（コアエリア）をつなぐ回廊（コリドー）として、住宅や事業著等の民有地の緑の保全・創出により、エコロジカルネットワークの維持・強化を図っていきます。	公共施設の自然共生サイト登録[検]〈再掲〉	土木部管理課
		緑化指導〈再掲〉	土木部管理課
		ビオトープガーデンの講座を実施〈再掲〉	土木部管理課
9	周辺自治体や東京都、国交省との連携強化による生きものの生育・生息空間のつながりの保全・創出の働きかけを行っていきます。	事業者のビオトープや生物多様性に配慮した緑化の情報発信[検]	土木部管理課
		周辺自治体、東京都、国への働きかけ[検]	土木部管理課

[検]：検討中の事業

【I-3】生態系や人の生活を脅かす外来種対策の推進

江東区では、ヒアリやセアカゴケグモ、アライグマ、アメリカザリガニ、ナガエツルノゲイトウなどの特定外来生物、生態系被害防止外来種リストに掲載されている生態系や人に被害を及ぼす又はおそれがある侵略的外来種など、国内・国外から来た外来種が数多く定着しています。

これらの外来種は、船に紛れ込んだ港湾からの上陸や荒川・隅田川といった大河川からの流下、街路樹や庭木からの拡散、ペットが逃げ出すなど、人の活動を通じて持ち込まれており、江東区にある元々の生態系のバランスを崩すだけでなく、区民の健康被害を引き起こす要因となっています。これは、東京湾に面し大河川の河口域に位置するほか、人口の多い江東区ならではの問題でもあります。

特定外来生物に代表される外来種の被害を防ぐためには、「入れない・捨てない・拡げない」の外来種被害予防三原則に基づき、行政・市民・事業者が連携して防除やモニタリングを進めることが重要です。また、区民への普及啓発活動を通じて、外来種問題への理解と協力を促す取組も求められています。



写真 4.5 特定外来生物①
(ヒアリ)



写真 4.6 特定外来生物②
(ナガエツルノゲイトウ(砂村ビオトープ))

① 各主体の役割

区

- 外来種による被害の把握や生息状況のモニタリング調査等を実施することで、最新動向を把握し、効果的な外来種対策に努めます。
- 外来種対策の重要性を啓発し、市民の理解と協力を促すとともに、民間団体や教育・研究機関等と協働し、対策に携わる人材育成や効果的な防除技術の普及啓発を推進します。
- 国や都等の関連機関と連携した水際対策などで外来種の侵入の早期発見に努め、被害の防止を図ります。
- 動物の適切な飼養についての普及啓発を実施します。

区民等

- ペットは責任を持って終生にわたり飼育し、ペットの遺棄は行いません。
- 外来種に関する情報の積極的な収集や取り扱いに関する正しい知識の理解。
- 他地域から持ち込んだ生きものを放流・放逐しないようにします。
- ガーデニングなどの植栽には、生態系に被害を及ぼす外来植物を用いないようにします。
- 釣りなどで捕まえた外来種はリリース（再放流）しないようにします。
- 外来種防除イベントに積極的に参加します。

事業者

- 事業所・工場敷地での外来種対策やモニタリング調査に率先して取り組み、それらの情報を積極的に発信・共有していきます。
- 他地域から持ち込んだ生きものを放流・放逐しないようにします。
- 事業所・工場敷地での植栽には、生態系に被害を及ぼす外来植物を用いないようにします。
- 外来種防除イベントに積極的に参加します。
- 外国産ペットや希少動植物は安易に売らず、終生飼養をするように呼びかけます。

民間団体

- 活動場所での外来種対策やモニタリング調査を実施し、それらの情報を集積・共有することで、効果的な外来種対策に貢献します。
- 行政や教育・研究機関との協働の下、多くの区民に外来種防除活動に参画してもらえるようなイベントを企画・運営します。
- イベントでは外来種の放流・放逐や、生態系に被害を及ぼす外来植物の植栽・配布をしないようにします。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、外来種対策の重要性、生物多様性の観点から生きものを放流・放逐することによる生態系への影響について伝えます。
- 生態系や人への被害を及ぼす外来種対策に対して、専門的立場から助言します。
- 生きものの野外への放流などによる在来種の遺伝的かく乱の現状について、調査・研究を行います。

国・都

- 区に対して、外来種対策等をはじめとした生物多様性保全に係る技術的及び財政的支援を行います。
- 都内で優先的に対策をするべき生態系に被害を及ぼす外来種対策リストを作成し、多様な主体による対策の推進を強化します。
- 青海ふ頭周辺の港湾施設、都民利用施設(公園緑地等)や中央防波堤埋立地において、ヒアリ等の外来生物の定着の有無についてモニタリング調査を実施するとともに、普及啓発の取組を行います。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
10	外来種の総合的な対策方針をまとめ、外来種の効果的な防除や、外来種が定着しにくい適正管理などを広めていきます。	江東区生物多様性推進マニュアルの策定 [検]〈再掲〉	土木部管理課
11	外来種対策の重要性を啓発し、外来種の効果的な防除や、外来種が定着しにくい適正管理などを広めていくための情報発信を行っていきます。	外来種の基礎情報発信	環境清掃部環境保全課
12	国や都等の関連機関と連携した水際対策などで外来種の侵入の早期発見に努め、被害の防止を図ります。	国や都等の関連機関との連携	環境清掃部環境保全課
13	外来種の侵入の早期発見に努め、被害の防止を図るため、外来種の被害状況の把握、防除対策を行っていきます。	特定外来生物等による被害状況の把握、防除対策	環境清掃部環境保全課
14	外来種の移入・拡大防止を図るため、植栽における在来種の積極的な利用推進や、外来種の積極的な防除対策を行っていきます。	在来種の積極的な利用、外来種の防除[検] 〈再掲〉	総務部営繕課 土木部管理課 土木部道路課 土木部河川公園課 土木部施設保全課教育委員会学校施設課

[検]：検討中の事業

【I-4】生きものとの共生社会の実現

江東区は、都市の中に様々な生きものが共存しています。しかし、生きもの生育・生息環境が人の生活するエリアの中にあることから、人間社会に不利益をもたらすことがあります。

例えば、カラスやサギ類、ウミネコなど、元々いる鳥類による糞や鳴き声、吐き戻しなどは、住宅地や公園、河川沿いに住む人々の生活に悪影響を及ぼしています。また、スズメバチなどの危険な昆虫類や、病原菌を媒介するハエ類やカ類、ダニ類などの存在も、区民の安全や健康に悪影響を及ぼす可能性があります。

こうした課題に対して、これまで江東区で行ってきた生きものによる被害の状況把握や被害防止に向けた対策の強化だけでなく、これらの都市の中にいる生きものとの共存に向けた取組を考え行い、生きものと上手く共生する持続的な社会を実現していくことが重要です。



【ウミネコ】



【ウミネコの卵】

写真 4.7 ウミネコと屋上の巣に産み付けられた卵



写真 4.8 サギ類のコロニー(仙台堀川)

① 各主体の役割

区

- 区に生育・生息する生きものの情報発信や適切な関わり方の普及啓発を進めます。
- 野生動物に関する最新の動向の把握やモニタリング調査等を実施し、野生動物の生態を踏まえた対策の検討と実施を行います。
- 公共施設や公共インフラ等の管理を適切に行うことで、不用意に野生動物の営巣場所をつくらないようにします。

区民等

- 野生動物との適切な関わり方や生態への理解を深めます。
- 野生の生きものに餌やりをしないことで、人と野生動物との間に適切な距離を保ちます。
- 庭木の果物や生ごみなどの誘引物を放置しないようにします。
- 家屋や庭等の管理を適切に行うことで、不用意に野生動物の営巣場所をつくらないようにします。

事業者

- 野生動物との適切な関わり方や生態への理解を社員に周知します。
- 野生動物の餌となるような果物や野菜、生ごみなどの誘引物を屋外に放置しないようにします。
- 事業所の敷地や建物等の管理を適切に行うことで、不用意に野生動物の営巣場所をつくらないようにします。

民間団体

- 区と連携し、野生動物のモニタリング調査や被害状況の把握などに協力します。
- 市民ボランティアなどの場において、野生動物との共存の在り方などを伝えます。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、野生動物との共存について伝えます。
- 野生動物の分布状況を調査し、野生動物に関する保護及び管理、被害対策、共存策などについて研究を行い、専門的な立場から提言します。

国・都

- 都民に被害をもたらす鳥獣等を除き、ケガや病気で弱った鳥獣について、野生復帰を図ることを目的として、傷病鳥獣の救護を実施します。
- 感染症を媒介する蚊など人獣共通感染症に係るサーベイランスを実施し、感染症の発生状況の把握に努めます。
- 「東京都カワウ被害対策計画」に基づき防除や追い払いなどを実施し、被害の抑制を図ります。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
15	野生動物との共存関係の実現を目指し、生活環境を脅かす種のモニタリング調査を継続的に実施し、各担当課との連携により幅広く共存に向けた取組を図っていきます。	ノラネコへの去勢	健康部生活衛生課
		不妊手術助成	健康部生活衛生課
		犬・猫の譲渡支援	健康部生活衛生課
		衛生害虫対策	健康部生活衛生課
		カラス対策	環境清掃部環境保全課
		ウミネコ対策 生活環境を脅かす種のモニタリング調査の継続	環境清掃部環境保全課 環境清掃部 環境保全課

[検]：検討中の事業

コラム 江東区公園マスタープラン

出典：〇〇〇

【I-5】多様な主体と連携した自然環境等に関する情報の集積と発信

江東区では、区による生物調査だけでなく、東京都や国土交通省、環境省による生物調査が行われているほか、民間企業や市民団体も自社敷地やポケットエコスペースで独自に生物調査を行っています。

しかし、これらの調査データは一つに集められていないことから、区の生態系に関するデータを漏れなく集め続けることが必要です。これには、様々な団体と連携しながら生物データの一つにまとめたり、区民の力を活用した調査が重要です。また、集めた生物データは様々な保全活動に役立てるために情報発信していくことも重要です。



写真 4.9 環境調査の実施状況(陸域調査)



写真 4.10 環境調査の実施状況(水域調査)

① 各主体の役割

区

- 市民科学も活用した継続的な環境調査と調査結果の情報共有を進めます。
- 区内の生物多様性の特徴や自然環境の変化をなどについて広く情報の共有ができるように、様々な主体とのデータ連携・一元化を進めます。
- 環境学習情報館などの拠点から生物多様性に関する情報発信を進めます。

区民等

- 身近な生きものや自然環境に関心を持ち、身の周りにどんな生きものがいるか観察します。
- 身近な植物、昆虫、野鳥などを観察して得られた情報を区に提供します。
- 区や民間団体等が開催する自然観察会や生きもの調査に積極的に参加します。

事業者

- 事業所や工場の敷地における生きものや自然環境に注目し、継続的なモニタリング調査や自然観察会を行う等の取組を実施します。
- 調査等により得られた動植物の生息・生育情報を区に提供します。
- 調査等により得られた動植物の生息・生育情報を自社 HP などで発信します。

民間団体

- 活動場所での継続的なモニタリング調査を実施します。
- 区民、事業者、区など様々な主体の連携・協働による生きもの調査を企画・実施します。
- 調査等により得られた動植物の生息・生育情報を区に提供します。
- 調査等により得られた動植物の生息・生育情報を HP などで発信します。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、生物多様性の基礎調査の重要性について伝えます。
- 自然環境分野における調査手法について、専門的な立場から助言を行います。
- 調査・研究等により得られた野生動植物の生息・生育情報を区等に情報提供します。

国・都

- 都内の自然環境情報の一元化に努めるとともに、それら自然環境情報を基にデジタルを活用したコンテンツにより東京の自然の魅力を発信する機能を持つ拠点の整備を検討し、実現を目指します。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
16	区内の生物多様性の特徴や自然環境の変化をなどについて広く情報の共有ができるように、様々な主体と連携し、地域の自然環境情報の集積と一元化を進めていきます。	継続的な環境調査と調査結果の情報共有	土木部管理課
		区民・児童生徒・市民団体等の協力による環境調査[検]	環境清掃部温暖化対策課 土木部管理課
		様々な主体とのデータ連携・一元化[検]	土木部管理課
		DX 推進[検]	政策経営部 DX 推進室 DX 推進課 土木部管理課
17	集積・一元化した地域の自然環境情報が様々な主体に行き渡るように、生物多様性の情報発信に関する基盤の検討・整備を進めていきます。	生物多様性の情報発信に関する居場所や拠点の創出[検]	土木部管理課
		環境学習情報館（えこっくる江東）からの情報発信	環境清掃部温暖化対策課

[検]：検討中の事業

基本目標Ⅱ 生かし、つなぐ



【Ⅱ-1】生物多様性に配慮した自然の恵みの持続的利用の推進(供給サービス)

江東区は人口が多く、生活に必要な木材や食料などの自然資源を多く消費しています。江戸時代には区内でも農業や漁業により食べものが作られ、採れたものが食べられてきましたが、現在では区内で自然資源がほとんど作られておらず、これらの多くを区外から得ています。そのため、江東区の消費活動は、区外の生物多様性や自然環境に影響を与える可能性があり、環境への配慮と地域資源の活用を通じて、区内外の持続可能な社会の構築に向けた取組が求められています。

また、レクリエーションの場の提供と緑化推進のために設置された区民農園での農業体験などを通して、自然の恵みを実感していくことも重要です。



写真 4.11 多摩産材のベンチ(区 HP)



写真 4.12 区民農園(夢の島区民農園)

① 各主体の役割

区

- 公共施設や公共工事において国産木材を率先利用するほか、住宅整備などに対して国産木材の活用促進を図ります。
- 生物多様性に関する食育事業の推進を図ります。
- 都産都消の推進を図ります。
- グリーン購入等の推進により環境への負荷を低減するとともに、エコラベル等の環境認証商品や生物多様性に配慮した商品の普及を促進します。

区民等

- 住居や家具などでは国産木材の活用を検討します。
- 都産や生物多様性に配慮した農林水産物を積極的に購入し、地域の農地の保全、都内食料自給率、食料の輸送に伴う CO₂ 削減、地域コミュニティの活性化等に貢献します。
- エコラベルがついた商品やサービスを選択します。
- 食育への積極的な参加により、生物多様性の持続的利用への理解を深めます。
- 区民農園などを利用することで、自ら無農薬の野菜を作って楽しむほか、自然の恵みを実感します。

事業者

- 建築や備品購入時には国産木材の活用を検討します。
- 都産や生物多様性に配慮した農林水産物の積極的な購入し、地域の農地の保全、都内食料自給率、食料の輸送に伴う CO₂ 削減、地域コミュニティの活性化等に貢献します。
- エコラベルがついた商品やサービスを選択・供給します。
- 企業の森に参加することで、東京の森づくりや水源林の保全に貢献します。

民間団体

- 食に関する講座やイベントの開催時において、生物多様性や江東区で生産されていた江戸伝統野菜に関する普及啓発を行います。

教育・研究機関

- 学校給食や大学食堂等で東京産食材を提供し、地産地消や東京産食材の普及啓発に貢献します。
- 農産物の供給だけでなく、生物多様性の保全や雨水貯留・雨水浸透など、都市農業が発揮する多面的機能について、調査・研究し、提言します。
- 水域の資源管理や環境保全について、専門的な立場から助言します。

国・都

- 都内地元農産物の価値を高め、地産地消を促進します。
- 主要魚種の資源管理を推進するため、調査・評価の充実を図るとともに、資源管理に取り組む漁業者の取組をバックアップしていきます。
- 在来魚を食べるカワウの防除や外来種の駆除、漁場環境を保全するための河川や海岸での清掃活動などの取組を支援します。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
18	国内の持続可能な森林・林業活動に貢献するため、公共施設や公共工事において国産木材の率先利用を進めていきます。	公共施設における木材の利用推進	環境清掃部温暖化対策課
19	国内の持続可能な農業・水産活動に貢献するため、また健康的で無駄のない食生活につなげていくため、食育事業の推進を図っていきます。	食育の推進	健康部健康推進課

コラム 「グリーン購入」と「エコラベル」

【Ⅱ-2】防災・減災や景観形成等に寄与する NbS の推進(調整サービス)

江東区では、地球温暖化を要因とする気温上昇や大雨等の頻発・激甚化、ヒートアイランド現象の進行等への早急な対応が求められる中で、公共施設等の整備に当たっては、生物多様性の保全と両立しながら、自然の持つ多様な機能を活用してこれらの社会課題を解決する取組である「NbS (Nature-based Solutions)」の推進が必要です。

江東区の水辺と緑が共存する地域特性を生かし、ヒートアイランド現象の緩和や雨水の浸透・貯留による水害対策、さらには燃え広がり防止や避難空間の確保といった防災・減災の取組、街中の緑による景観形成やリラックス効果など、多面的な調整サービスの発現に繋がるグリーンインフラなどの取組が重要です。



写真 4.13 壁面緑化
(ヒートアイランド対策)



写真 4.14 雨庭
(雨水貯留浸透)

① 各主体の役割

区

- 公園・緑地など多面的機能を有する自然環境を適切に保全・管理するとともに、雨庭（レインガーデン）の整備や雨水流出抑制のための取組を進めることで、雨水浸透・雨水貯留機能の向上やヒートアイランド現象の緩和・暑さ対策を図ります。
- 緑化指導や貴重な樹木・樹林の保護により、きれいな景観の形成の推進を図ります。

区民等

- 自宅の庭の緑化や、雨水浸透枳を設置することで、地域の雨水浸透域の拡大に貢献します。
- 所有する樹木や樹林の保護指定に協力します。

事業者

- 事業所や工場の敷地における緑地を適切に保全・管理し、雨水浸透・雨水貯留を促進します。
- 事業所や工場の敷地に雨水浸透ますや透水性舗装を敷設することで、地域の雨水浸透域の拡大に貢献します。
- 所有する樹木や樹林の保護指定に協力します。
- 開発時には生態系への影響を回避・低減するだけでなく、緑地や水辺の創出に貢献します。

民間団体

- 区や事業者と連携し、保全地域や公園・緑地、企業緑地等の維持管理を図り、自然の持つ多面的機能の向上に貢献します。
- 市民ボランティアによる保全活動を企画・実施するほか、イベントなどを通じて自然の持つ多面的機能の重要性について伝えます。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、グリーンインフラの取組などを通じて、自然の持つ多面的機能の重要性について伝えます。
- 自然環境が有する多面的機能やグリーンインフラの手法について、専門的な立場から助言します。

国・都

- 自然を活用した社会課題の解決（NbS）の取組を行う事業者や民間団体の取組事例や効果を、「Tokyo-NbS アクション」として発信します。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
20	気候変動により危惧される水害対策として、緑化や雨水流出抑制対策などを推進していきます。	公共施設の緑化整備	土木部河川公園課
		緑化指導〈再掲〉	土木部管理課
		雨水流出抑制対策指導	土木部河川公園課
21	気候変動や都市化により進行しつつあるヒートアイランド対策として、緑化や雨水貯留対策などを推進していきます。	公共施設の緑化整備〈再掲〉	土木部河川公園課
		緑化指導〈再掲〉	土木部管理課
		雨水流出抑制対策指導〈再掲〉	土木部河川公園課
22	緑の保全・創出に防災・減災機能を期待しつつ、きれいな景観の形成にもつながるように指導や助成等を行っていきます。	緑化指導〈再掲〉	土木部管理課
		保護樹木・樹林助成制度〈再掲〉	土木部河川公園課
		景観計画届出に対する指導	都市整備部都市計画課

【Ⅱ-3】地域の自然資源を生かした体験活動への参画推進と歴史・文化の保全・継承 (文化的サービス)

江東区では、公園や庭園などにおける多種多様な花見文化を始めとして、コミュニティガーデン活動や区民農園、釣りのレクリエーションなど、自然資源を生かした様々な文化的な体験活動が行われています。また、富岡八幡宮や亀戸天神社といった神社仏閣、清澄庭園など、多様な生きものが生育・生息するだけでなく、歴史的にも価値のある景観資源があります。

これらの自然体験や自然観察、農業体験などの自然との触れ合い活動は、精神的な癒しや健康増進、生物多様性への関心と理解を深める機会となります。また、自然と触れ合う機会が少ない区民、特に次世代となる子どもたちにとっては、日常生活の中で身近に自然を感じることができる機会だけでなく、区外のより豊かな自然を体験できる機会も必要です。更には、これらの体験活動などを通して、江東区に受け継がれてきた豊かな自然とそれに関わる歴史や文化を次世代へと保全し受け継いでいくことも重要です。



写真 4.15 自然観察会



写真 4.16 旧中川水辺公園(写真精査中)

① 各主体の役割

区

- 公園・緑地や保全地域等において適切な維持管理を行うことにより、身近に自然と触れ合える機会の場を創出します。
- 区内外における自然資源を生かした体験活動の機会創出や参画を推進し、区民の健康増進や子供の非認知能力の向上に貢献します。
- 歴史的・文化的な景観資源を生かしたまち並みの持続的な形成と保全・継承を図ります。
- 江戸東京野菜といった伝統的な食文化の普及啓発を進め、次世代に継承していきます。
- 文化財として指定されている天然記念物などを適切に保護・管理していくとともに、地域の自然と結びついた歴史・文化を継承します。
- 森林環境譲与税を活用するなどにより、自然が豊かな地域で森林整備に寄与する活動等を実施するほか、区市町村が保有する施設において、多摩産材を率先して利用します。

区民等

- 自然観察会や田んぼの学校における農業体験、区外の森林体験ツアーなどに積極的に参加します。
- エコツアーなどに積極的に参加することで、生物多様性に配慮しながら東京の自然の多様な魅力や地域に根付く文化を体験します。
- 江東区みどり百景に応募します。
- 江戸東京野菜といった伝統的な食文化や花見文化など、自然資源に関わる歴史・文化の体験を通じ、食文化への理解や食文化の継承に貢献します。
- 地域の自然環境と文化の繋がりについて調べ学び、多世代に渡って受け継ぎます。
- 自然の中でのワーケーションやリモートワークを積極的行います。

事業者

- 敷地内緑地などを自然体験の場として開放し、区民の自然との触れ合いの機会を創出します。
- 観光など地域の自然資源を活用したプロジェクトを企画・運営する場合には、生きものや自然環境に影響を与えないように十分配慮します。
- 開発時には周辺景観に配慮します。
- 地域の自然に根差した食文化や伝統知を観光資源の価値として見だし、その保全や継承に貢献します。

民間団体

- 地域の公園、緑地、水辺、ポケットエコスペースやコミュニティガーデン、区民農園などを環境学習や自然体験の場として活用するとともに、地域コミュニティの活性化を図ります。
- 各地域の身近な自然で、あらゆる世代に向けた自然観察会や自然体験活動の場を創出し、参加を呼びかけます。
- 伝統的な文化や手仕事の知識・技術を持つ元気な高齢者に、生物文化多様性保全の取組での活躍を促します。

教育・研究機関

- 学校での環境教育や自然体験活動の場として、東京の多様な自然を活用するとともに、校内にも生物多様性に配慮した学校ビオトープや園庭ビオトープを創出し、適切に管理するなど、身近に自然との触れ合いの場を整備し、環境教育に利用します。
- 幼少期の自然体験が生物多様性保全の意識の醸成につながるなど、自然体験や環境学習等と生物多様性保全との関係について調査研究します。
- 将来を担う次世代に対して、学校の環境教育や自然体験活動の機会を通じ、自然環境に配慮した行動の重要性について伝えます。
- エコツーリズムや日常的な自然体験活動、地域循環共生圏など自然環境の保全と利用の両立に関して、専門的な立場から調査・研究し、提言します。

国・都

- 東京都版エコツーリズムの推進など、生物多様性に配慮した観光の振興を図るとともに、地域固有の魅力や地域の自然に根付く文化の普及を進めます。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
23	区内の多種多様な歴史文化や、歴史的に価値のある緑、親水環境、レクリエーション性などを生かした体験活動を進め、地域の歴史・文化に紐づいた理解・浸透につなげていきます。	コミュニティガーデンで生物多様性に配慮 [検]	土木部管理課
		食育の推進〈再掲〉	健康部健康推進課
		自然観察会の開催	環境清掃部温暖化対策課
24	区外でのより豊かな自然を体験できる機会を創出することで、次世代となる子どもたちに自然との関わりについての幅広い理解・浸透につなげていきます。	森林環境譲与税を活用した森林体験ツアーなどへの参加	環境清掃部温暖化対策課
25	歴史的・文化的な景観資源を生かしたまち並みの形成を進めています。	保護樹木・樹林助成制度〈再掲〉	土木部河川公園課
		江東区みどり百景の実施	土木部管理課
		景観計画届出に対する指導	都市整備部都市計画課

[検]：検討中の事業

基本目標Ⅲ 知って、変わる



【Ⅲ-1】生物多様性の理解の促進

江東区では、令和6年度時点で「生物多様性の内容を知っている」と答えた区民の割合が39.8%にとどまっており、生物多様性への理解と関心をより高めていくことが求められています。また、東京全体においても、生物多様性の認知度はまだまだ低く、その価値や重要性が十分に広まっていないのが現状です。

生物多様性の保全と回復を進め、その恵みを将来にわたって受け取っていくためには、区民一人ひとりが江東区における生物多様性の成り立ちや現状、保全の大切さを正しく理解し、日常生活や地域活動の中でその価値を実感し、行動を変えていくことが重要です。このためには、生物多様性フェアや環境フェアなどのイベントやSNS等による情報発信、新たな活動拠点の創出を検討していきます。



写真 4.17 生物多様性フェアの開催状況



写真 4.18 環境フェアの開催状況

① 各主体の役割

区

- 継続的なアンケートによる区民の生物多様性への関心度をモニタリングしていきます。
- 多様な主体と連携し、生物多様性フェアなどのイベントやSNS、新たな居場所や拠点等による生物多様性の情報発信を行うことで、区民生活や経済活動における生物多様性の理解を深めます。
- 区内で気軽に生きものの観察、自然体験活動、農業体験等ができる場所やイベントに関する普及啓発を積極的に行います。

区民等

- 身近な自然や季節の移り変わりに関心を持ち、身の回りにどんな生きものや自然があるのか探してみたり、自然体験活動への積極的に参加したりします。
- 区や民間団体等が実施する生物多様性関連のセミナーや自然体験プログラムに積極的に参加し、自分の仕事や生活の中で生物多様性に貢献できることを探して実践していきます。
- 公園・緑地や保全地域などにおける利用ルールを守り、自然を楽しみながら、生物多様性の重要性について学びます。
- 生物多様性について体験したこと・学んだことは、子どもなどの家族や友人、職場・同僚にも伝えて共有し、生物多様性の保全の重要性や課題の認識を身近な所から広めていきます。

事業者

- 商品販売などの事業活動やC S R活動において、生物多様性へ配慮・貢献する取組を充実させ、生物多様性の価値や重要性を従業員と共有します。
- 事業所や工場敷地内、製品・サービス等における生物多様性への配慮や保全の取組に関する情報は、ホームページやS N Sなどで社内外に積極的に開示・発信します。
- 自社の生物多様性に配慮・貢献する取組を企業価値の向上につなげるため、T N F Dに基づく情報開示を行っていきます。
- 生物多様性フェアなどのイベントにおける積極的な情報発信や参加者との意見交換を行っていきます。

民間団体

- 生物多様性関連のセミナーやイベントの企画・開催をします。
- 生物多様性フェアなどのイベントにおける積極的な情報発信や参加者との意見交換を行っていきます。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、生物多様性の重要性への理解を促すとともに、身近な地域における生物多様性の価値についても伝えます。
- 生活や経済活動の基盤である健全な生物多様性の保全について調査・研究し、専門的な立場から提言します。

国・都

- 自然地における特定の場所や登山道等に利用者が集中しすぎないように、東京の多様な自然の魅力を発信するとともに、自然公園、都立公園などの利用ルールの普及啓発を推進します。
- 生物多様性保全に取り組む団体や人材情報など必要な情報の収集及び提供並びに助言を行う機能を持つ拠点の整備を検討し、実現を目指します。
- D Xを活用した都民参加型生きもの情報収集蓄積プロジェクトにより、都内の生物多様性の基盤情報となる野生動植物目録等を策定していきます。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
26	生物多様性フェアや環境フェアなどのイベントやSNS等による情報発信、新たな居場所や拠点の創出などにより、生物多様性に関する理解促進を図っていきます。	イベントやSNS等による生物多様性の情報発信	土木部管理課 土木部施設保全課 環境清掃部温暖化対策課
		生物多様性の情報発信に関する居場所や拠点の創出 [検]〈再掲〉	土木部管理課

[検]：検討中の事業

コラム 生物多様性フェア 2025（開催状況とアンケート結果）

【Ⅲ-2】あらゆる主体の連携・協働による取組の推進

江東区では、行政だけでなく、NPO・市民団体、事業者、教育・研究機関、区民など、様々な人たちが区内の多様な場所で生物多様性の保全や活用の活動を行っています。また、国（国土交通省、環境省等）や東京都は、江東区内に管理地があり多様な生きものが生育・生息していること、周辺区・関連自治体は水辺や緑地を通して生きものの繋がりがあることから、区の生物多様性の保全に深く関連しています。

これらのことから、それぞれの団体が持っている情報や知見を共有し、それぞれが積極的に連携・協力し合うことで、江東区の自然環境の現状を的確に把握し、保全活動や普及啓発を推進していくことが重要です。そこで、多様な人たちが連携・協働する場を設け、各主体の取組を推進していきます。



写真 4.19 多様な主体の会議の様子(江東区みどりの基本計画推進会議部会)



写真 4.20 コミュニティガーデン活動

① 各主体の役割

区

- 多様な主体が連携・協働する場を設け、各主体の取組を推進します。
- みどりのボランティア活動を支援し、区内の自然を守り持続的に利用する人材の育成を進めます。
- 民間団体、教育・研究機関、周辺自治体や都、国と連携した取組を進めていきます。
- （仮称）江東区生物多様性地域戦略の進捗管理を行います。

区民等

- 区や民間団体等が開催する自然観察や生きもの調査に積極的に参加し、学習したことを普段の生活で実践できるよう理解を深めます。
- 動植物園や庭園、環境学習施設などを訪れるとともに、子どもが生物多様性に関心を持つような活動やイベント等に参加して、自然や生きものと触れ合うきっかけをつくれます。
- みどりのボランティア活動に積極的に参加します。

事業者

- 各主体が参画する会議の場に積極的に参加します。
- 各主体との連携・協働して、保全活動や普及啓発イベント等を開催します。
- 企業の担当者や社員が生物多様性に関する環境教育イベントなどに参加し、生物多様性に配慮した企業活動や生活を実践できるよう理解を深めます。
- 企業緑地を自然体験活動や自然観察の場として区民に開放し、区民が生物多様性の重要性を学べる環境を創出します。
- 企業のCSR活動においてNP0等と連携し、地域の子どもたちを対象とした自然体験活動を実施し、自然環境分野における人材育成に貢献します。

民間団体

- 各主体が参画する会議の場に積極的に参加します。
- 各主体との連携・協働して、保全活動や普及啓発イベント等を開催します。
- 環境教育や自然体験活動の効果的なプログラムを企画するほか、中高生向けのキャリア形成講師や大学生のインターンを積極的に受け入れ、自然環境分野における人材育成に貢献します。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、生物多様性の保全に向けた取組や持続的な利用について伝えます。
- 公園・緑地や適切に管理された学校ビオトープ・園庭ビオトープなどを活用して環境教育を行うほか、園児・児童・生徒とともに保全活動を実施します。
- 生物多様性に配慮した行動変容に関して、専門的な立場から助言します。

国・都

- 東京湾再生官民連携フォーラムで東京湾環境一斉調査、東京湾環境マップの提供、マコガレイ産卵場の底質改善調査、東京湾の指標となる調査研究を実施し、東京湾再生推進会議への政策提言をします。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
27	区民、事業者、民間団体、教育・研究機関、国・都・区といった多様な主体が連携・協働する場を創出し、各主体が保有する情報や知見の共有と、それぞれが積極的に連携・協力して取り組んでいきます。	グリーン・コミュニティ会議の実施	環境清掃部温暖化対策課 土木部管理課 土木部道路課 土木部河川公園課
		みどりのボランティア活動支援	土木部管理課
		大学・研究機関と連携した取組の推進[検]	環境清掃部温暖化対策課
		(仮称)江東区生物多様性地域戦略の進捗管理[検]	土木部管理課

[検]：検討中の事業

【Ⅲ-3】生物多様性の保全に貢献する環境教育・人材育成の促進

江東区では、ポケットエコスペースの維持管理など区の自然環境を守る人材の高齢化などにより担い手が不足しています。これは、自然との距離が広がる現代のライフスタイルによる意識の変化や生物多様性の重要性が十分に伝わっていないことが要因にあります。

次世代を担う子どもたちをはじめ、あらゆる世代が自然とふれあい、生物多様性の価値を理解し、行動へとつなげていくためには、より多くの区民が参加し意識を向けていく必要があります。これより、学校における環境教育の推進や幅広い学習機会の拡充を通して、環境活動を推進する環境人材を育て、区の生物多様性の保全活動への参加を推進していく必要があります。



写真 4.21 田んぼの学校の田植え



写真 4.22 エコリーダー養成講座 2024

① 各主体の役割

区

- リーダー養成講座等により、地域のリーダーとなる環境人材の育成を進めます。
- ポケットエコスペースを活用し、学校における環境教育を推進します
- みどりのボランティア活動を支援し、区内の自然を守り持続的に利用する人材の育成を進めます。
- 環境学習情報館（えこっくる江東）での環境学習の充実化し、幅広い学習機会の拡充や創出を図ります。
- 自然環境を利用しながら守ってきた伝統知や地域知の普及啓発を行い、次世代に継承していくとともに、田んぼの学校などを活用し地域の自然に根差した環境教育・人材育成を行います。

区民等

- リーダー養成講座の受講や環境検定の受験により、生物多様性への理解を深めます。
- 環境学習施設を積極的に利用します。
- 様々な団体が行う環境イベントに参加したり、家族や友人、職場・同僚に参加を呼び掛けたりします。
- 伝統知や地域知を生かした保全活動などに参加し、伝統的な農法や文化について学び、生物多様性への理解を深めます。

事業者

- 企業の担当者や社員が生物多様性に関する環境教育イベントなどに参加し、生物多様性に配慮した企業活動を実践できるよう理解を深めます。
- 専門家の招致による社員への環境教育を実施し、生物多様性に配慮した企業活動を実践できるよう理解を深めます。
- 社内外での環境活動を通して、社員の生物多様性の意識向上につなげます。

民間団体

- 区のリーダー養成講座や環境教育イベントに協働で企画・開催に参画します。
- 環境教育や自然体験活動の効果的なプログラムを企画するほか、中高生向けのキャリア形成講師や大学生のインターンを積極的に受け入れ、自然環境分野における人材育成に貢献します。
- 団体内における次世代の中核人材の受入・養成を図ります。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、生物多様性の保全に向けた取組や持続的な利用について伝えます。
- 公園・緑地や適切に管理された学校ビオトープ・園庭ビオトープなどを活用して環境教育を行うほか、園児・児童・生徒とともに保全活動を実施します。
- 生物多様性に配慮した行動変容に関して、専門的な立場から助言します。

国・都

- 私立を含む都内小学校の教員等へ実践的な環境教育の研修を行い、教科横断的かつ総合的に、環境に関する授業を実施できる人材を養成します。
- 都民の環境問題への理解を深めることを目的としてテーマ別環境学習講座を実施します。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
28	地域の環境活動の担い手となる環境ボランティアや、学校や地域での環境体験学習で助言・指導ができるエコリーダーの育成を図っていきます。	リーダー養成講座等の実施	環境清掃部温暖化対策課 土木部施設保全課
29	地域と連携した環境学習授業や環境教材の提供等を通じて環境教育の一層の充実を図ります。	ポケットエコスペースを活用した学校教育	教育委員会指導室
30	区民・事業者が主体的に学び、考え、実践することができるよう、イベントや環境学習講座など、より幅広い世代が環境について学習する機会を拡充化していきます。	環境学習情報館（えこっくる江東）での環境学習の充実化	環境清掃部温暖化対策課
31	環境保全に関するノウハウを持っている人材を、地域における環境保全活動に活用していきます。	コミュニティガーデンで生物多様性に配慮 [検]〈再掲〉	土木部管理課
		田んぼの学校〈再掲〉	土木部施設管理課

[検]：検討中の事業

【Ⅲ-4】日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進

世界中との結びつきが強い今の社会では、日々の暮らしに欠かせない食べ物や企業が使う資源は、他の地域や国で作られていることが多く、その地域の生物多様性に間接的な影響を与えていることがあります。また、地球温暖化対策を進めるにあたっては、生物多様性の保全とのバランスを考える必要があります。

企業は、ネイチャーポジティブ経営（企業が事業活動において自然環境への負荷を最小限に抑え、生物多様性の保全に貢献しながら、社会課題の解決や新たな価値創造を目指す経営手法）を推進していくとともに、プラスチックごみや食品ロスを減らすこと、資源を大切に使うこと等は、区民一人ひとりができる取組です。こうした行動が江東区から地球全体の環境を守ることへとつながります。



写真 4.23 江東区食べきり協力店のステッカー



写真 4.24 若洲公園整備事業（江東区版ゼロカーボンパーク）

① 各主体の役割

区

- グリーン購入等の推進により環境への負荷を低減するとともに、エコラベル等の環境認証商品や生物多様性に配慮した商品の普及を促進します。
- 生物多様性の保全にも繋がるグリーンファイナンスを促進します。
- ネイチャーポジティブ経営など生物多様性に配慮した経済活動を普及します。
- 持続可能な資源利用・資源循環や、街の美化を推進します。
- 気候変動緩和策やグリーンインフラを推進します。

区民等

- エコラベル等の環境認証商品や生物多様性に配慮した商品を積極的に購入します。
- マイバッグやマイボトルを携帯し、リユース、シェアリング、量り売り等を活用するなど、使い捨てプラスチックを使用しない生活を送ります。
- 生活ごみの適切な分別排出に協力するとともに、リサイクルにより生産された再生品を積極的に購入・利用します。
- 日々の暮らしの中で食材の買いすぎや食べ残しなどに気を付けるほか、フードドライブ等の活動を通じて、食品ロスの削減を図ります。

- ごみのポイ捨てや屋外放置をしないほか、自主的なごみ拾いやごみ拾いイベントなどに参加します。
- 節電や公共交通機関の積極的利用といった CO₂ 排出量削減に向けて生活します。
- 生きものの分布域の変化や生物季節の変化のモニタリングに協力します。

事業者

- 事業全体を通した 5R の取組を進め、持続可能な資源利用やプラスチックの消費・排出の削減に貢献します。
- フードドライブ等の活動を通じて、食品ロスの削減を図ります。
- 再生可能エネルギーや省エネルギー、エコ通勤等の取組を進め、CO₂ 削減による気候変動緩和に貢献します。
- 雨水流出抑制対策や緑化等の取組を進め、気候変動緩和に貢献します。
- 事業活動に当たっては、グリーン購入等の推進により環境への負荷を低減するとともに、エコラベル等の環境認証商品や生物多様性に配慮した商品を調達します。
- 商品販売やサービス提供の機会を通じて、生物多様性の価値や重要性を消費者やユーザーに発信します。
- サプライチェーンにおいて、生物多様性に対する負の影響を低減する取組に加え、生物多様性を回復させる取組を進めます。
- 金融機関は、生物多様性に配慮・貢献する事業を進める企業やプロジェクトに対して、積極的な投融資を進めます。

民間団体

- 地球温暖化や資源の大量消費・廃棄による生物多様性への影響について普及啓発を行います。
- フードドライブの普及啓発や活動支援を行います。
- 生物多様性に配慮した消費行動について普及啓発を行います。
- 気候変動対策と生物多様性保全の同時解決の重要性について普及啓発を行います。
- 地球温暖化に伴う生きものの分布域の変化に気づくためのイベントや自然観察会を実施し、モニタリングに協力します。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、生物多様性に配慮した経済活動や消費行動、プラスチックごみや食品ロス削減、気候変動対策と生物多様性保全の同時解決の重要性について伝えます。
- 生活や経済活動における消費・調達が与える地球規模の生物多様性に対する正・負の影響について、調査・研究し、提言します。
- 資源利用に伴う地球規模の生物多様性への影響やプラスチックごみが与える海洋生態系への影響について、調査・研究します。
- 地球温暖化と生物多様性の連関に関する調査・研究を行います。

-
- 気候変動対策と生物多様性保全が相互に与える影響について、専門的な立場から助言を行います。

国・都

- グリーン購入等の推進により環境への負荷を低減するとともに、環境認証商品や生物多様性に配慮した商品の普及を促進します。
- 生物多様性の保全にも繋がるグリーンファイナンスを促進します。
- 持続可能な資源利用の実現を目指し、東京における持続可能な「消費・生産」について検討するとともに、その実現に向けた施策を実施します。
- プラスチックごみや食品ロスの削減による、地球規模の生物多様性への負荷軽減に向けた対策を実施します。

② 江東区における主な取組内容と事業等

No.	取組内容	事業等	担当課
32	生物多様性に配慮した経済活動の普及を図っていきます。	環境に配慮した活動の支援と、活動の実践例や効果・メリット等を広く周知	環境清掃部温暖化対策課
33	区内事業者のネイチャーポジティブ経営への移行に向けた情報発信等の支援を行っていきます。	事業者の生物多様性保全に貢献する技術・サービスに関する事例の情報発信 ^[検]	環境清掃部環境保全課
34	環境美化に対するマナー向上の普及啓発を実施するとともに、区民・事業者等と協働し、まちの美化を推進します。	「江東区みんなでまちをきれいにする条例」に基づくまちの美化	環境清掃部環境保全課
35	区民・区内飲食店等と連携し食品ロス削減の取組を進めるとともに、区民への周知等、情報を発信します。	フードドライブ、江東区食べきり協力店登録制度を実施	環境清掃部清掃リサイクル課
36	5Rの取組を通して、循環型社会への理解を促し、ごみの減量や資源の再生利用等を促進します。	環境学習情報館（えこっくる江東）を拠点とした5Rについての普及・啓発 資源循環に配慮した商品の選択やごみ分別の徹底等 循環経済の取組についての周知啓発	環境清掃部温暖化対策課 環境清掃部 清掃リサイクル課 環境清掃部 清掃リサイクル課
37	持続可能な循環型経済（サーキュラーエコノミー）への移行を促進します。	公園等の樹木から出る剪定枝や落ち葉を堆肥やチップ等に利活用し、ごみ減量化	土木部 施設保全課
38	環境にやさしい公園を整備します。	江東区版ゼロカーボンパークの整備	土木部河川公園課
39	国内の持続可能な森林・林業活動に貢献するため、公共施設や公共工事において国産木材の率先利用を進めていきます。	公共施設における木材の利用推進〈再掲〉	環境清掃部温暖化対策課
42	気候変動により危惧される水害対策として、緑化や雨水流出抑制対策などを推進していきます。	流域自治体の連携（保水林の確保、貯水池等） 公共施設の緑化整備、緑化指導〈再掲〉 雨水流出抑制対策指導〈再掲〉	土木部管理課 土木部河川公園課 土木部管理課 土木部河川公園課
41	気候変動や都市化により進行しつつあるヒートアイランド対策として、緑化や雨水貯留対策などを推進していきます。	公共施設の緑化整備〈再掲〉 緑化指導〈再掲〉 雨水流出抑制対策指導〈再掲〉	土木部河川公園課 土木部管理課 土木部河川公園課

[検]：検討中の事業

コラム 清水建設・フジクラのビオトープ

第5章

戦略の推進

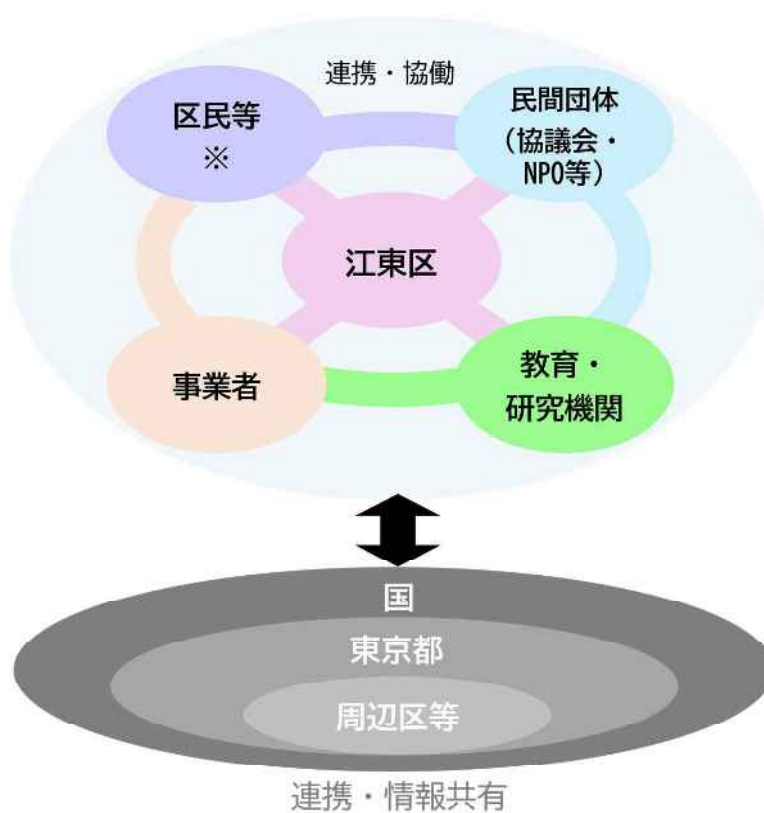
- 1 推進体制
- 2 進行管理

第5章 戦略の推進

1 推進体制

（仮称）江東区生物多様性地域戦略の推進、目標の達成は、江東区だけの取組や努力だけではうまくいきません。江東区に加えて、区民（江東区民及び通勤・通学者、地域と多様に関わる人々を含む）、民間団体（協議会・NPO等）、教育・研究機関、事業者等を、主な取組主体として位置付け、各主体が連携・協働しながら取組を推進していきます。

なお、江東区ではすでに生物多様性フェアなどを通じて、あらゆる主体が情報交換できる仕組みができ始めています。この動きをさらに広めていくとともに持続的に開催していけるように進めていきます。



※区民等：江東区民及び通勤・通学者、地域と多様に関わる人々（関係人口）

図 5-1 取組主体の関係

2 進行管理

（仮称）江東区生物多様性地域戦略の推進にあたっては、PDCA（計画：Plan、実行：Do、評価：Check、改善：Action）サイクルによる進行管理を基本とします。PDCA サイクルによる適切かつ持続的な進行管理を行うことにより、2050 年将来像の実現及び 2030 年目標の達成に向けて、生物多様性の保全や取組の状況が現状よりも螺旋状に向上（スパイラルアップ）していくことを目指します。

また本戦略は、昆明・モントリオール生物多様性枠組の目標年次である 2030 年を機に、国際的な目標の再改定又は国家戦略、東京都戦略の改定状況を踏まえた見直しを行います。

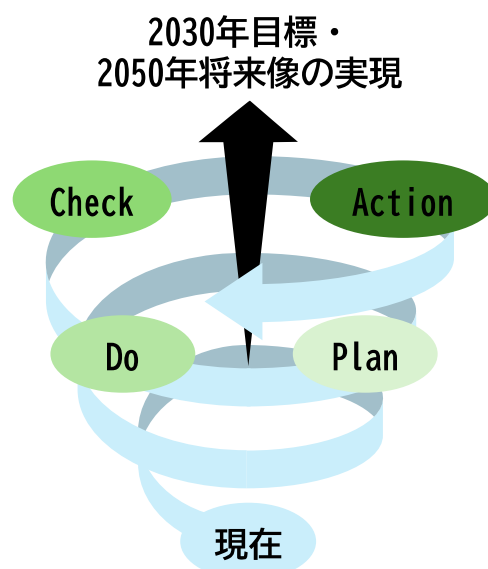


図 5-2 PDCA サイクルによる進行管理イメージ

資料編

目 次

資料編

- | | | |
|---|--|---|
| 1 | 検討の経緯..... | ● |
| 2 | 検討の体制と委員名簿..... | ● |
| 3 | 現地調査の方法及び結果..... | ● |
| 4 | エコロジカルネットワークの評価手法（dIIC）についてと評価結果の詳細..... | ● |
| 5 | 用語解説..... | ● |